



# 図工室から

VOL 17

令和7年2月26日  
馬橋小学校



第17回の「図工室から」は、4年生で実施した美術鑑賞プログラムを紹介します。

「アートわっか・すぎなみ」という杉並区の小学校などで美術鑑賞教室を実施しているボランティアチームの皆さんを招いて、美術作品の「対話型鑑賞」の活動を行いました。

「対話型鑑賞」とは、作品に関する知識を聞くことなく、ファシリテータの発問をきっかけにして鑑賞者が自由な見方で作品を鑑賞し、一緒に鑑賞している人たちと自分の感じたことを伝え合いながら多様な見方や感じ方を深めていくというものです。作者の制作意図とは関係なく、鑑賞者の作品の見方はすべて肯定されます。

4年生の子どもたちは、複数の作品の共通点を見つけたり、色や形などの造形的な要素に注目する中で、作品を深く見てきました。思いついた見方を発言したり、友達の見方に対する自分の考えを伝えたりする中で鑑賞の時間が非常に楽しいものになっていきました。授業の振り返りでは、多くの子どもたちがもっと絵を見たかったという感想をもっていました。

対話型鑑賞の活動は、美術に対する興味関心を深めると同時に、他者の多様な見方、考え方を知ってコミュニケーション力を高めることにもつながると考えます。

今後も子どもたちの成長のために、様々な学習の機会をつくっていこうと思います。



馬橋小学校 図工専科 直本 鉄平